

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 東野 和夏

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受けて、2023年3月6日～3月16日までの期間、オーストラリア New South Wales 州にある TAFE（高等職業訓練専門学校）で薬学語学研修に参加しましたので報告いたします。



2. TAFE について

TAFE とは、オーストラリアに 100 校以上ある州立の高等職業訓練専門学校です。TAFE ではビジネス、美容、マッサージ、医療、アート、農業など幅広い分野のコースが開かれています。生徒の 90%以上は現地のオーストラリア人ですが、留学生も多いため、英語のコースも開かれており、私たちは、午前中は English Class、午後は Pharmacy Class を受講しました。

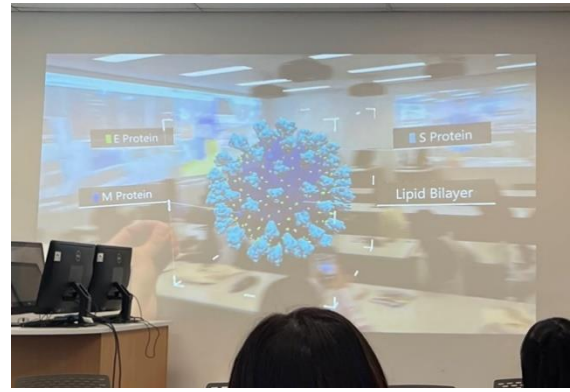
(1) English Class

日常的に用いるフレーズやオーストラリアのスラングを学び、ペアで練習をしたり、ホームステイでの出来事を発表したり、チームを組んで伝言ゲームをしたり、楽しく英語を学ぶことができました。休憩時間のアフタヌーンティーでは、紅茶を飲んだり、お菓子を食ったりし、沢山のひとと会話を楽しみました。

(2) Pharmacy Class

オーストラリアの薬剤師の役割、薬の分類、薬局の仕組み、処方箋などについて学びました。オーストラリアでは薬剤師が予防接種をしたり、血糖値の検査をしたり、日本では出来ないことをしていて驚きました。立場が日本と比べて高いと身をもって感じ、日本も積極的に導入してほしいと思いました。

グリフィス大学では、ある装置を頭に装着すると目の前に浮かび出されたコンピューター上の映像を自由自在に操ることができる近未来な装置を見て、やはり進んでいるなと実感しました。



右図のウイルスを操作している様子

また、実験室や模擬薬局を見学し、薬のパッキングを体験させていただきました。薬のパッキングは日本のお薬カレンダーのようにスケジュールに基づいて、服用するタイミングごとに小分けに管理することができ、また、衛生面に優れ管理しやすいため、お年寄りなどの飲み忘れを防ぐことができるとても画期的なものだと感じました。



(3) その他の体験

オーストラリアの先住民アボリジニの方々にアボリジナル文化について話を聞きました。そこで、伝統的な楽器の音色を聞いたり、魚を獲るときに用いる綱のようなものを作ったりしました。

3. ホームステイ先について

私のホームステイ先は TAFE から車で 20 分くらいの所で、ホストファミリーは母、息子の 2 人家族でした。私のおぼつかない英語を一生懸命聞いて理解しようとしてくれたり、ゆっくり話してくださっ



たり、課題について教えてくださったり、とても優しく接してくださいました。

TAFE へはバスで通学していたのですが、ホストマザーがバス停まで車で送ってくださいました。バスが来るまでの間、何回かビーチに連れて行ってくださり、青く美しい海と朝日を見ることができ、優雅な朝を過ごすことができました。学校が終わると、スーパーやショッピングモールに行って買い物をしたり、ホストマザーの美味しいご飯をいただき、その後Netflixで映画を見たり、平日とは思えないほど充実していました。休日にはマカダミア・キャッスルという動物園に連れて行ってくださって、コアラやカンガルーなどたくさんの動物を見たり、海で波に乗って遊んだり、色々な体験をさせていただきました。

ホストファミリーのおかげで毎日が新鮮で楽しく、とても充実したホームステイ生活を送ることができました。



4. 終わりに

初めての海外、初めての語学研修だったのでとても不安だったのですが、ホストファミリーや現地の学校の先生が温かく迎え入れてくださったおかげで、たくさんのことを学び、色々な経験をすることができました。同時に、今回の語学学習を通して視野が広がり、もっと色々なことに挑戦していきたいと思いました。この体験を活かして日々頑張っていきたいと思います。

今回、国際交流基金の助成や多くの方々のおかげで、このような貴重な経験をさせて頂くことができました。このような機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。